

# 平成27年度 予算編成方針のポイント

平成26年10月20日  
財 政 課

## 引き続き、多額の財源不足額が見込まれる

### 【本市の財政状況】

- ・歳入では人口減等により市税の増収が見込めない中、歳出では扶助費が増加傾向
- ・総務省の概算要求では、地方交付税総額は8,400億円(▲5.0%)の減とされており、地方交付税の減少が懸念される
- ・社会保障・税一体改革に伴う制度改正等の取扱いが不透明



財源不足は26年度当初予算編成時よりも  
3億円拡大し、12億円に！

※26年度予算をベースに試算

財政調整基金 残高  
約13億1,000万円  
(H26.3定 現在)

本市の財政は、平成25年度決算において、実質収支の黒字を確保したものの、財政調整基金の取崩しによる財源対策があつてのことであり、財政調整基金の取崩し等を考慮した実質単年度収支では約4.4億円の赤字となっています。

### 【平成26年度当初予算】

平成26年度の当初予算編成では、約9億円の財源不足が生じたことから、財政調整基金の取り崩しにより、収支均衡予算を編成しています。

## 平成27年度予算編成は、骨格予算

原則として政策予算は、当初予算での計上を保留することとなるが、  
予算見積りは年間予算として作成

### 【予算編成の基本的な考え方】

- ・「真の財政再建」に向けて、健全化の取組を継続
- ・コストの低減や質の向上に努め、安易な歳出増としない
- ・行政評価(事業評価)の結果を踏まえ要求
- ・「地方創生」をはじめ国の動向に注視し、的確に予算編成に反映

予算要求は、別途通知する予算要求基準額の範囲内での要求を基本とする  
(扶助費の自然増等を除き、原則として平成26年度当初予算の範囲内)